

第11回 歴史&ハイキング愛好会 例会実施報告

当番幹事 川股賢三

第11回例会を1月21日（木）に参加者20名で開催いたしました。この例会の企画にあたって改めて千葉支部のサークル活動の足跡を調べますと現サークルは歴史サークルとハイキングクラブを合併したものです。旧サークル時代に二つのサークルで計104回の例会が開催され、合併後に10回例会が持たれており、千葉とその周辺の名所旧跡をほぼ総て探索やハイキングし尽くしております。

今回はテーマを初詣に絞ってみると東京近郊で多数の参拝者があるのは明治神宮・浅草寺（東京都）・鶴岡八幡宮・川崎大師（神奈川県）・成田山新勝寺（千葉県）などがあります。この中で過去のハイキングや歴史サークルで散策をしていないのが唯一、川崎大師です。そこで川崎大師を今回の探索地と定めはしたものの横にある瀋秀園以外に適当な散策地が見当たらず、ネットサーフィンを繰り返して、腰痛持ちや高齢で足腰の弱ってきた会員が参加できることを条件に捜し、旧東海道の川崎宿の紹介施設（東海道かわさき宿交流館）・浮世絵の資料館（砂子の里資料館）・味の素川崎工場見学会など屋内の活動を中心しました。

当初は松の内に川崎大師の初詣を検討しましたが、正月くらい、ゆっくり自宅で過ごしたいとの会員の声があり、川崎大師の初大師（21日）に参詣することとしました。

例会開催の21日は大寒の入りで大変寒い中、千葉県在住の我々は2時間前後をかけて川崎市川崎区鈴木町の味の素川崎工場内「うま味体験館ロビー」に集合時刻の10時15分に全員が揃いました。

10時20分から本日の最初の行程の「ほんだし」見学コースをスタートする。見学コースの最初に「うま味体験館」1階のホールで「うま味」の発見経過などを8台のプロジェクターを使用し4面の壁をスクリーンとしたビデオ説明を受け、東京ドーム7個分の広い敷地内の「ほんだし」製造工場へバスで移動した。途中、鈴木町の命名由来の説明を受けた。この町名は味の素株式会社の創業者鈴木三郎助氏の氏名からとったもので住民登録者は1名もない町だそうです。また、事務所前の小さい庭には創業者鈴木三郎助氏の立派な銅像が建てられていた。

「ほんだし」製造工場は7階建のビルで縦型のロボット工場であり、最上階で原料（鰹節など）投入し、各階ごとに原料を砕く作業、粒状化作業そして小袋詰め・小売パッケージ梱包・輸送用段ボール詰めまですべて自動化生産が行われていた。ラインには作業員が見かけられず、工程中間での品質管理者とラインの管理者のみが見られる無人工場であった。

輸送用段ボール詰めも小売店用・増量キャンペーン小売り店用・業務用と3本のラインで目的ごとにパッケージされていた。

また、5階では昔懐かしい鰹節削器を使っの鰹節削り体験や花かつおの美味しさ体験が出来た。



鰹節削りに挑戦(六角)



花かつおで味を確認(六角)

「うま味体験館」に戻り、2階の教室でうま味調味料の「味の素」や「ほんだし」の利用効果を小さいおにぎりやみそ汁で体験した。



うまみの体験教室1(川股)



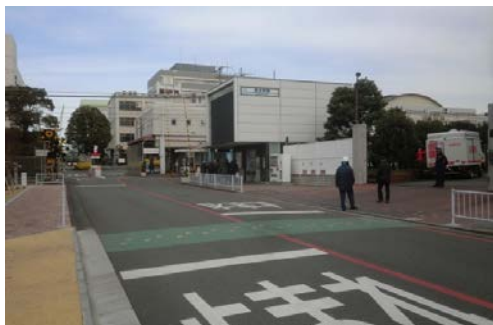
うまみの体験教室2(六角)

工場見学を終了し1階ロビーに降りる、ここでは家族思いの参加者が合わせ調味料やスープ等を購入していた。売店の反対側には創業時からの製品パッケージが展示してあり、世界中に輸出されていることがうかがわれた。

工場規模を理解いただく為に後で聞いた話だと京急大師線の港町駅、鈴木町駅、川崎大師駅、東門前駅が工場用地内にあり、現在は線路用地を京急へ賃貸借しての運用とのことでした。

この規模で従業員数は3000名強で大半が事務職・研究職とのことでした。その為に完成品の「Cook Do」や「ほんだし」などは一カ所の完全自動倉庫に納入され、コンピュータで管理する等の省力化・無人化物流が見られた。

次に鈴木町駅から川崎大師駅へ電車移動し、駅前で川崎大師関連資料を配布し、再集合場所を確認して1時間の昼食休憩とした。



鈴木町駅前(六角)



川崎大師駅前(六角)

昼食時間中に、ここでも家族思いの会員は名物の「久寿餅」や「のど飴」を購入し、重い荷物を下げていた。



参道(川股)



のど飴のカット風景(川股)

A wide-angle photograph of a large, traditional Chinese temple complex. The main hall features a dark, multi-tiered roof with ornate decorations and a central sign that reads '金剛山' (Kongansan). A banner in the foreground, strung across the entrance, says '2019年' (2019 Year). The temple is surrounded by lush green trees, and a large crowd of people is gathered in the courtyard in front of the main hall.

A bronze statue of a samurai stands on a large, dark rock. The samurai is wearing a traditional haori and hakama, and is holding a sword (katana) in his right hand. He is surrounded by lush green trees and a traditional Japanese shrine building with a tiled roof is visible in the background. In the foreground, there are several stone markers or grave stones, some with inscriptions. A person's head is visible in the lower left corner, looking towards the statue.

A photograph of a large, golden Buddha statue seated on a stone pedestal in a park-like setting. In the foreground, a red and white bridge railing is visible, with several people walking across it. The background features trees and a building with a dome.

薬師殿(川股)

不動門に集まり、平間寺の横にある大師公園へ向かい、川崎市と瀋陽市友好都市提携5周年記念して作られた中国式庭園「瀋秀園」を散策した。

瀋陽市は満州国時代は奉天市と呼ばれ、清国の最初の首都で奉天府と呼ばれた都市です。



正面入口(川股)



見晴台(川股)



見晴台からの園内(川股)

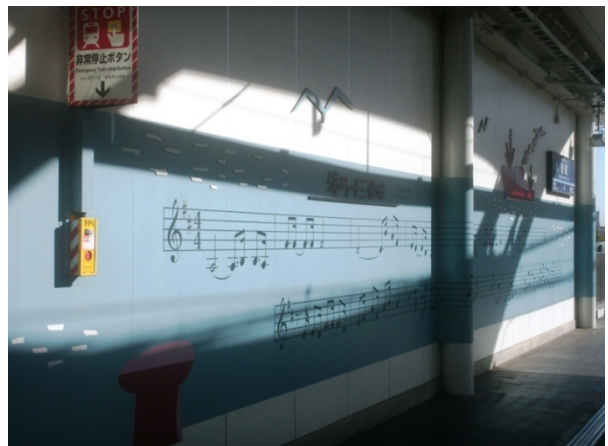


園内を散策する参加者(川股)

東門前駅から京急川崎駅に向かう、電車は川崎大師のマーク付きで運行しており、観光客の誘致に努めている。途中の港町駅のプラットフォームには美空ひばりの「港町13番地」の楽譜が壁一面に書かれているのを車中から眺めた。



電車の初大師マーク(川股)



港町13番地の楽譜(川股)



港町13番地の楽譜(川股)

私は集合前に港町駅(旧コロムビア前)に降りて確認したところ、近くに元コロムビア・レコードのプレス工場があり、現在は売却されてマンション街になっています。電車接近メロディーとして「港町13番地」の曲が使用されています。南口の改札を出るとひばりの歌碑がありました。



工場用地後の高層マンション群(川股)

京急川崎駅到着後、旧東海街道を通過して「東海道かわさき宿交流館」に向かう。1階で解説ビデオを見た後、2階・3階に分かれて見学する。

2階では説明員によって川崎宿の由来が紹介された。この宿は元和9年(1923年)に品川・神奈川宿の伝馬負担を軽減するために開設された。ピーク時には72軒の旅籠をあり、東海道でも有数の繁栄した宿場街であった。戦災で歴史的な建造物は大部分が焼かれ、現在は街並みは変化し、本陣跡・問屋場跡・高札場跡など表示のみが見られるのみ。そこで交流館では古文書・古地図を元に宿場の街並みをジオラマや地図に再現して見せている。2階のフロアーには部屋一杯街並みが書かれおり、展示場にはジオラマが見られる。特に航空写真と地図の比較で東海道の道筋だけが昔のままであったのが印象的でした。



川崎宿の解説(六角)

この宿は脇本陣が無く、三軒の本陣があったようだ。このうちの一軒佐藤本陣の子孫に詩人佐藤惣之助氏がいる。彼は「青い背広」「人生劇場」「六甲おろし」の作詞者として知られている。

3階を使用して、川崎市成り立ちから現在の川崎市を説明パネルや写真を使用して解説がされていた。



さすがに疲れて一服(川股)

また、3階までの階段には一段ごとに広重の東海道53次の浮世絵が描かれていて雰囲気を醸し出していた。

引き続き、砂子の里資料館(浮世絵のコレクターで所有の版画を公開されている。)に立ち寄った。ここは1月7日に下見をした時には2月8日まで休館の表示があって見学をあきらめたが、東海道かわさき宿交流館へ行く道筋にあり、ドアが開いているので確認すると会館中になっており、急遽帰りに追加して見学をすることとした。今回の展示は初代広重「東海道五拾三次之内 保永堂版全揃」と川崎の生んだ浜田庄司(益子焼の陶芸作家・人間国宝)展であり。東海道53次の宿場に日本橋・京三条を加えた55枚の版画を展示していた。その内の一部の宿は初刷と後刷の二枚が展示されていた。浮世絵マニアにとっては大変興味ある展示ではと感じた。

京急川崎駅に引き返して予定の通り15時30分頃本日の行程すべてを事故もなく終了した。次回について当番幹事の木頃さんから案内があり、3月下旬の暖かくなり、花の咲くころを狙って「ふなばしアンデルセン公園」などの散策を企画中との案内があり、3月の再開を約した解散した。

参加者氏名は集合写真の下欄を参照して下さい。



集合写真(六角撮影)氏名(敬称略)

一列目・橋本裕一郎、遠藤哲也、小澤敏宣、岩田芳秀、西長義方、山田昌之の6名

二列目・六角 学、牧田賢二、藤井弘道、木頃勝紀、佐々木梧郎、岩崎正憲、川上 昇、川股賢三、
野田 佑、湯浅尋夫、住田勝治、宮武 亨、川島省三、田代 周の14名

スナップは六角氏撮影のものを一部使用して有ります。

次葉のスナップは六角さん撮影のものです。

以上

＊「うま味体験館」和風だしの素「ほんだし」の講義！



＊京急川崎大師駅から川崎大師

